

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育 さとやま (昆陽ルーム)		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 1日		令和6年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 64名	(回答者数)	50名
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 1日		令和6年12月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 12月 23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども1人に対し、支援者1人がそれ以上で活動を行っている(国が定める基準以上の人員配置)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者一人ひとりに役割を決め、活動メニューに沿った手厚い支援と連携を行っている</li> <li>・利用日毎の子どもの変化に気付きが多くある</li> </ul>	現状の人員配置で運動活動を行い、身体や情緒の困りごとに細かく配慮を行う

2	子どもと保護者の利用満足度の高さ 子どもが「楽しい」「まだ帰りたくない」と利用を楽しんでいる様子が多くある 保護者から、「利用日を楽しみにしてい」「運動が好きになった」と評価をいただいている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい気持ちで運動が継続出来るように、プログラム設定や声掛け方法を工夫している</li> <li>・子ども一人ひとりに合わせたプログラムを組む。その日の状態を見て、運動の内容や声掛けを変更したり、柔軟な対応をしている</li> </ul>	引き続き、子どもが楽しく積極的に運動活動を継続出来るように、様々な配慮を行う
3	職員間の風通しの良さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の提案を拒否せず、まずは検討し取り組んでいる。</li> <li>・それぞれが持ち合わせる得意分野は伸ばして、苦手な事や困難な事は皆で協力して、分担している</li> <li>・新しい事を取り入れたりチャレンジする柔軟性がある</li> </ul>	セミナーや研修の出席を増やし、職員間で共有を行って知識を向上する

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	玄関前に2段の段差がある為、転倒などの危険性がある	玄関前のスペースが狭く、保護者の送迎時に混雑することがある。ドアの開閉による衝突や、段差での転倒の危険性を感じる	玄関から出られる時は、保護者と子どもに「手をつないでゆっくり歩きましょう」「段差に気を付けてください」と注意を促す 玄関に入られる時は、スタッフが中から開けるときに「開けます」と声掛けをしながら、ゆっくりとドアを開け衝突を回避できている
2	利用の入れ替わり時に、玄関内が混雑すること	現状、活動の迎えと送りの時間を同じ時間帯で入れ替を行っているので、混雑が発生している	10分間での入れ替わりを5分間隔で分け、混雑を軽減する。保護者に案内し協力していただく
3	活動の情報発信の場が少ない	自宅で取組める運動メニューを保護者に具体的に伝えられる場が少ない。連絡帳や送迎時の口頭での説明、インスタのみであるので、自宅で手軽に出来る運動を発信していきたい	インスタ以外のSNSツールやセミナー開催などを利用して、情報発信を行う